

リーディングDXスクール事業【実践事例】

たつの市立龍野東中学校（兵庫県）【指定校】

【取組内容】 情報活用能力の育成 【②】

1 <情報活用能力の全体像の明確化と共有>

文部科学省が示す情報活用能力の定義（「必要な情報を主体的に収集・判断・処理・創造し、発信・伝達できる能力」）を参考に、本校で育成を目指す情報活用能力の具体的な要素（情報モラル、情報セキュリティ、情報の収集・選択、情報の比較・評価、情報の整理、情報の発信・伝達、批判的思考力など）を明確にしました。この全体像を教職員間で共有し、共通理解のもとで指導にあたりました。

2 <GIGA環境の積極的かつ日常的な活用>

1人1台端末と高速ネットワーク環境、各種アプリケーションを、特別な活動だけでなく、日常の授業で「文房具」のように活用しました。これにより、生徒はICT機器や情報技術に慣れ親しみ、情報活用能力の基礎となるスキルを自然に習得できました。

3 <批判的思考力の育成>

情報の収集・選択・比較・評価の段階で、情報の信憑性、偏り、情報源の信頼性などを多角的に検討するよう促しました。また、正解が一つではない問いを立て、多様な意見を引き出し、議論を通して考えを深めさせる活動を取り入れました。

4 <協働的な学びの促進>

グループワーク、ペアワーク、発表と相互評価など、生徒同士が協力し、学び合う活動を積極的に取り入れました。また、オンラインツールを活用し、意見交換や共同作業を円滑に進められるようにしました。

5 <教師のファシリテーターとしての役割>

教師は、知識を一方的に教えるのではなく、生徒の主体的な学習活動を支援するファシリテーターとしての役割を担いました。情報活用スキル（検索方法、情報源の評価方法、プレゼンテーション資料の作成方法など）を具体的に指導するとともに、個々の生徒の状況に応じて、きめ細かくアドバイスや支援を行いました。

6 <形成的評価の重視>

生徒の活動の過程や成果を継続的に観察し、形成的評価（フィードバック）を通じて、生徒の成長を促しました。また、自己評価や相互評価を取り入れ、生徒が自らの学びを振り返り、改善する機会を設けました。